

問 「肥満の漢方治療とはどのようなものですか？」①

答 肥満の漢方治療について、お話します。表は、日本東洋医学会が出版している「漢方医学テキスト」に記載されている「肥満の頻用処方」です。この表をもとに、解説してまいります。（あくまで一般論であり、私が日常営んでいる漢方診療とは趣が異なるところがあります。批判がましい物言いになることがあろうかと存じます。あらかじめ、ご了承願います）

表 肥満の頻用処方

固太りタイプ	防風通聖散、大柴胡湯、大承気湯
水太りタイプ	防已黄耆湯、越婢加朮湯、九味檳榔湯
瘀血を伴う場合	桃核承気湯、桂枝茯苓丸
気逆・気鬱を伴う場合	柴胡加龍骨牡蠣湯、桃核承気湯、加味逍遙散、抑肝散、半夏厚朴湯

（日本東洋医学会、「漢方医学テキスト」）

まず、肥満を「固太りタイプ」と「水太りタイプ」に分けます。あまり医学的な表現とは思われず（実は、このテキストは「専門医のための」という副題がついている漢方医学の専門書です）、どのような規準で「固太り」と「水太り」に分けるのか、判然としませんが、おそらく、「むくみ」が目立つのが「水太りタイプ」、そうでないのが「固太りタイプ」なのでしょう。「瘀血（おけつ）」はいわゆる「血の流れ」が悪いこと、「気逆・気鬱」はいわゆる「気の流れ」が悪いことです。「固太り」「水太り」は「タイプ」で、「瘀血」「気逆・気鬱」は「を伴う場合」となっており、「タイプ」と「を伴う場合」の差がまたまた判然としません。「熟慮の末に『タイプ』と『を伴う場合』という言葉を使い分けた」という熱意は伝わってきませんから、深い意味はないのでしょう。要は「気血水」で考えればよいのですから、肥満を呈している方で、「水の流れが悪くないのが『固太りタイプ』」「水の流れが悪いのが『水太りタイプ』」「血の流れが悪いのが『瘀血を伴う場合』」「気の流れが悪いのが『気逆・気鬱を伴う場合』」と割り切りましょう。

あとは、上から順番に見てまいります。まずは「固太りタイプ」で、防風通聖散（ぼうふうつうしょうさん）が記載されています。防風通聖散は、当院では「スリム快便湯」と称しています。大黄（だいおう）、甘草（かんぞう）、芒硝（ぼうしょう）の三つの生薬で構成される「調胃承気湯（ちょういじょうきとう）」というお薬が骨格になっています。胃腸に詰っている毒を下から排せつさせる作用があります。あとは、石膏（せつこう）、滑石（かつせき）、山梔子（さんしし）、薄荷（はっか）、防風（ぼうふう）、麻黄（まおう）など、からだの熱をとる生薬がたくさん含まれています。要するに、防風通聖散（スリム快便湯）は、「むくみが目立たない肥満で、頑固な便秘があり、頭痛・のぼせ・皮膚の湿疹などの、からだにこもった熱による症状がみられる方」に有効です。